

山はいま、 林家はいま

— 森林・林業再生プランが始まって

森林・林業再生プラン下で、いま、林家はどんな気持ちでいるのか知りたくて、今号はお二人の方にご登場いただいた。昨年度1年間の移行措置も終わり、4月からはいよいよ、新しい森林経営計画に基づいた林業が全国的にスタートした——。

森の声を聴け

「森林・林業再生プラン」に欠けているもの

吉井和久（熊本県水俣市・農林業）

木材価格が暴落!!

2012年5月、国産丸太価格が暴落した。

林業という仕事を始めて約30年になるが、木材価格はその間ずっと下がり続けてきた。昭和50年代に3万円強だったスギ1㎡当たりの価格が、最近では1万円程度まで下落していた。森林所有者の多くは森林から収入を得ることをあきらめ、森林の管理を放棄した。外からは緑豊かに見える森林の多くは、一歩中に入ればひよろひろのスギがびっしりと生えていて、林内に光は入ってこない。伐採跡地も放置された。再造林しようと思えば、木材の売上をはるかに上回る経費が必要となるからだ。そういう状況の中にあってもなお、林業家たちは知恵をしぼり創意工夫をしながら林業を継続し、森を守り続けてきた。林業の可能

性を信じてきた。

しかし、木材価格はさらに大きく下落した。林業界に衝撃が走った。スギ7000〜8000円、ヒノキ1万円。もはや林業を続けることは不可能だという思いがよぎる。いったい何が起こったのか。

森林・林業再生プランでは

▼森林経営計画で集約化を推進

2009年、農水省は「森林・林業再生プラン」を策定。政府の新成長戦略の一環として「10年後の木材自給率50%」とする数値目標を設定した。そして、2011年4月、森林法が改正され、翌2012年4月からこれまでの森林施業計画が森林経営計画という新制度となった。

これは、森林所有者や森林管理者が5年間の森林施業及び保護の計画を作成し、市町村等の認定を受け、認定された森林経営計画に



筆者の50年生のスギ林

基づき間伐などの作業を集約化して行なうもの。それによって、計画的な森林整備並びに合理的な森林経営が可能になるといえるのだ。

▼材を出せば出すほど補助金上がる

また、新たな助成金の制度であ

る森林管理・環境保全直接支払制度も導入された。間伐に対する直接支払は森林経営計画の策定が条件となり、間伐面積が5ha以上かつ平均搬出量が10㎡/ha以上の搬出が義務付けられる。木材を搬出しない切り捨て間伐は助成金の対

